

## 第2号議案

### 道路改築事業

国道353号 川島バイパス

しづかわ かない うばしま

渋川市金井～祖母島

### 着工年度

平成21年度

### 評価理由

社会的状況の変化

## 1. 事業の目的

国道353号川島バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化や県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。また、ハッ場ダムの生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

### 【上信自動車道全体の効果】

#### ○関越自動車道へのアクセス向上

- ・関越自動車道 渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮

【約90分 ⇒ 約60分】

#### ○医療機関への搬送時間の短縮

- ・吾妻地域から県央地域の第3次医療機関への60分圏域人口が約1万1千人増加

【約115千人 ⇒ 約126千人】

#### ○ハッ場ダム地域の生活再建を支援

### 【上信自動車道 川島バイパスの効果】

#### ○国道353号の渋滞緩和

- ・北群馬橋交差点 渋滞長 400m → 解消



## 2. 事業概要と進捗状況

### 事業概要

事業場所	しづかわ かない うばしま 渋川市金井～祖母島	
区分	今回	前回再評価時
全体事業費	6,400百万円	4,900百万円
全体事業費増減の理由	地質の詳細検討による追加対策等に伴う増	
事業期間	H21～H31	H21～H28
事業内容	道路延長 2,200m 幅員 10.5m	道路延長 2,200m 幅員 10.5m

### 事業経緯

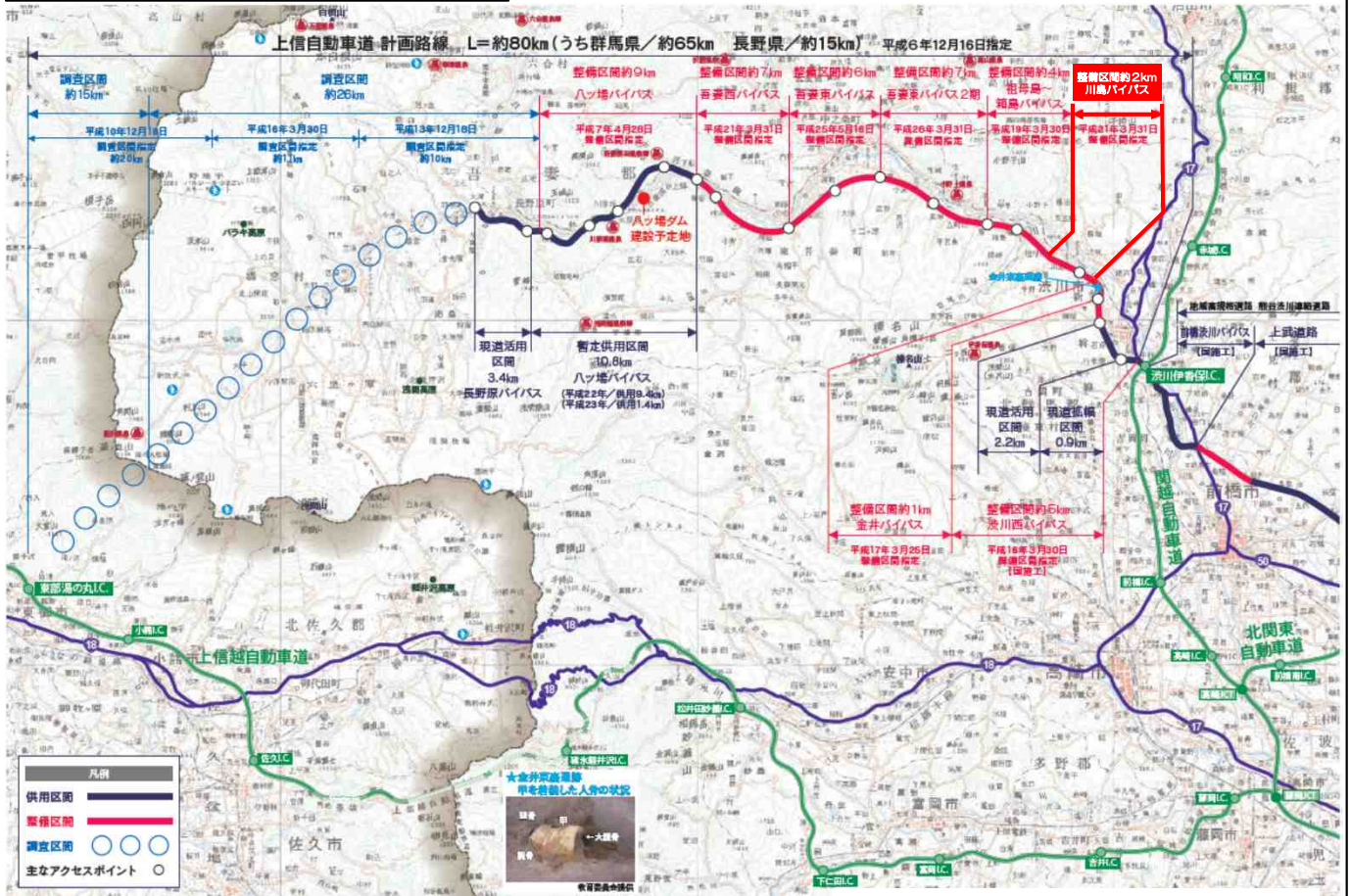
年度	主な経緯
H21	事業着手
H23	用地買収着手
H25	工事着手

### 進捗状況

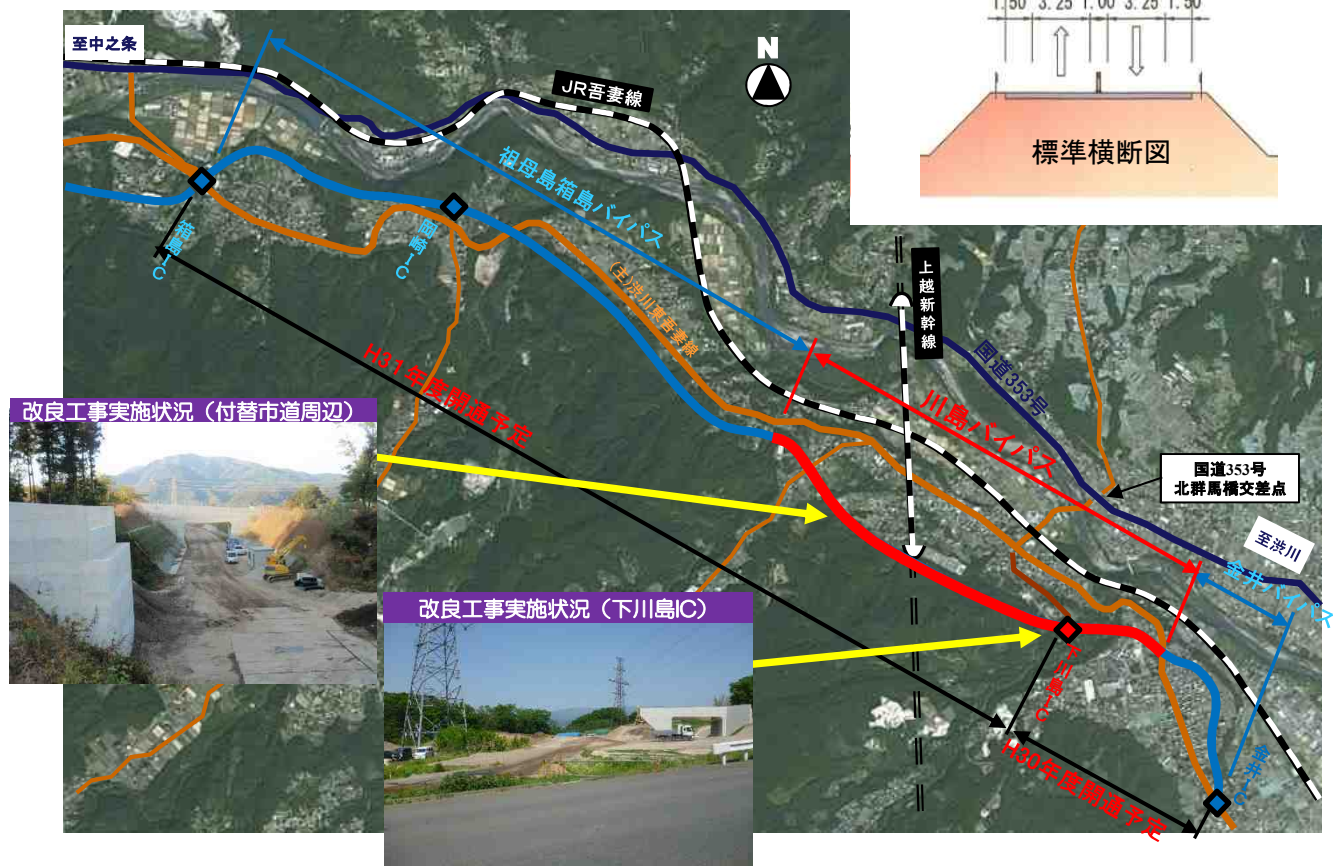
	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
事業費	6,400百万円	3,202百万円 (50.0%)	1,969百万円 (30.8%)
用地買収	97,441㎡	80,438㎡ (82.6%)	64,059㎡ (65.7%)
計画延長	2,200m	0m (0.0%)	0m (0.0%)

## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

### 地域高規格道路「上信自動車道」



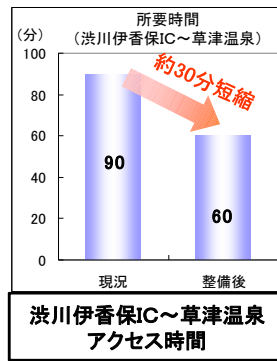
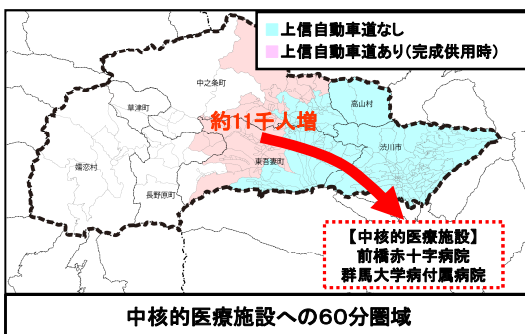
### 川島バイパス概要



### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

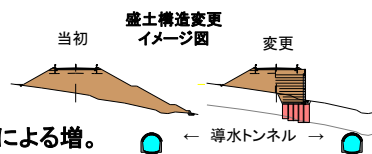
- ・吾妻地域と、県央地域間の移動時間は改善されておらず、地域高規格道路の整備により、物流・観光等の活性化や、中核的医療施設への搬送時間短縮が望まれており、事業の目的・必要性に変化はない。
- ・国道353号(渋川市北牧)では、北群馬橋交差点を中心に渋滞が発生しており、交通混雑の解消が急務である状況に変化はない。

国道353号 交通量調査結果 渋川市北牧付近(H22センサス)  
 交通量: 16,502台/日 混雑度: 1.40



### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ・渋川市内の慢性的な渋滞を解消するには、市街地を迂回する交通の分散が図れるバイパス整備が有効である。
  - ・本バイパスは上信自動車道の一部として整備しており、高速道路網が未整備である吾妻地域のアクセス向上には欠かせない道路であり、一連区間として整備することにより、吾妻地域の活性化に大きな効果が期待できる。
  - ・このため、目的を達成する事業として適当であると考える。
  - ・また、事業費増を最小限とするため、道路構造を見直し近接する水力発電用導水トンネルへの影響を回避している。
- 【事業費の増加要因】
- ・地質の詳細検討により、構造物基礎工事等の追加、地元の生活道路等の追加に伴う増。
  - ・道路に近接して埋設されている水力発電用導水トンネルへの影響回避に伴う盛土構造の変更による増。



#### 費用便益分析

単位:千円

		前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月			
基準年		平成25年		平成27年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	4,387,000	94.5%	6,289,000	96.6%		
	維持管理費	255,000	5.5%	223,000	3.4%		
費用合計(C)		4,642,000		6,512,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便益	9,353,000	82.6%	13,541,000	94.2%	道路ネットワークの変更 〔吾妻東BP2期の追加〕	
	交通事故減少便益	916,000	8.1%	749,000	5.2%		
	走行経費減少便益	1,056,000	9.3%	90,000	0.6%		
便益合計(B)		11,325,000		14,380,000			
費用対効果分析(B/C)		2.44		2.21			

## 5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

【不測の事態により長期化】

### 【元々が長期計画の理由】

・インターチェンジごとに開通目標を設定して計画的に事業を推進するが、事業延長2.2km、全体事業費49億円(変更前)と事業規模が大きく、地元調整、用地取得、工事完成までに長期間を要する計画となっている。

### 【不測の事態により長期化した理由】

・一部地権者との用地交渉が難航し理解が得られていないことから遅れが生じており、土地収用法に基づく取得手続きを進めているところであるが、3年間の不測の期間を要する見込みである。

## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

国道353号川島バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化や、県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

また、ハツ場ダムの生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

国道353号の北群馬橋交差点では、依然として渋滞が発生しており、吾妻地域と県央地域間の移動時間の短縮が図られておらず、吾妻地域の地域経済の活性化に資する上信自動車道の整備が急務である状況は変わっていない。

事業実施にあたり、地元市町村や地域住民との合意形成に努めた結果、道路計画についての同意が得られたことから、平成23年度に用地買収に着手し、平成25年度から改良・橋梁工事に着手した。

用地取得の状況は面積ベースで83%となっているが、一部地権者との交渉が難航し理解が得られていないことから、任意交渉と合わせて土地収用法の手続きを進め、平成31年度の開通を目指して事業を推進している。

整備推進にあたっては、施工に長期間を要する構造物の先行着手や効率的な施工手順となるよう施工計画を見直し、工事期間の短縮に努めている。

以上から、本事業の必要性、重要性は高く、事業を継続実施し、早期に効果発現を図ることが適切であると考えます。